冷静に考えたいワクチン接種

議会質疑も
追加され続ける
新型コロナワクチン接種

説明と実態の乖離?!
ワクチン接種等の**実態**について

見過ごされる
デメリット

軽視すべきでない!!
懸念される
副反応について

議会報告
① 変わる!ごみ分別
② 旧三宅小と旧味舌小
跡地の将来的な活用

この資料は市議会議員松本暁彦の政治活動等の報告です。

松本あきひこ 通信 Vol.9（ワクチン特集）

自民党

令和4年10月発行

摂津市議会議員
事務所 摂津市別府 1-4-6-505 TEL06-6349-2515

（討議資料）

議会報告 変わるごみ分別
茨木市のごみ処理場に一本化

茨木市環境衛生センター

1. 広域連携の推進、ごみ行政の改革

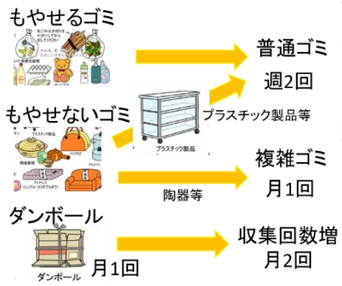
令和5年度から、茨木市との広域連携が開始されます。具体的には、摂津市の環境センター（ごみ焼却施設）が運転停止し、**摂津市のごみ**については**茨木市の環境衛生センターにて処理**されることになります。

これにより、摂津市は茨木市と費用負担を行い、茨木市環境衛生センターにごみ焼却施設を一本化することで、摂津市環境センターの建て替え等の**多額の財政支出を抑える**ことができます。

また、茨木市の高い性能を持つ施設を活用できることにより、**市民のサービス向上**につながります。

摂津市環境センター

2. 令和5年度から、変わるごみ分別・高まる利便性



令和5年度からごみ分別が変わる予定です。例えば、「燃やせないごみ」のうちプラスチック等を「燃やせるごみ」と合わせ、**「普通ごみ」**とし、週2回の収集、陶器などの「燃やせないごみ」を**「複雑ごみ」**と区分し、月1回の収集となります。また収集回数増加の要望のある**段ボール**は、回数を月1回から**月2回に変更**される予定です。（議会答弁）

再生資源の活用促進・収集ニーズを考慮した見直しが行われます。

3. 提言 広域連携で市民サービス向上へ

このごみ処理場の広域連携は、本市のごみ行政の大きな改革です。

そのため議会にて、収集運搬体制においては、**事業者との更なる連携**、そして**直営の職員確保**について議論を進めること、行政サービスの向上の取組推進等、広域連携が市民にとって不便になったと云われぬよう、しっかりと**改革を進めるよう**提言しています。

議会質疑も 追加され続ける 新型コロナワクチン接種

「周りで**副反応のひどい人が出てきた**から、ちょっと心配で、今回からはちょっと**打ち止め**かな。」というような声を最近、市民の方からお聞きします。

また、小児の保護者の方からは、「ほぼ重症化しない子どもでは、自己免疫で十分なら、長期的な安全性が検証されていない**mRNAワクチンを打つ必要性は低いのでは?**」という疑問の声も聞きます。

その為、**ワクチン接種の実態**について改めて把握する必要性を感じ、6月・9月の議会で質疑するとともに、その内容をまとめました。

1. 追加接種の日程・オミクロン株対応ワクチン

オミクロン株と従来株に対応した**2価ワクチン**の供給が9月下旬に始まり、本市での接種開始は次の通りです。（摂津市資料より）

①10月1日から**4回目接種**の対象者に接種を開始
②順次、3回目未接種者や4回目の対象とならなかった六十歳未満の方にも**対象を拡大**していく予定。
③**5回目接種**（予定）は、4回目接種から5カ月経過後に接種券発送予定。
④**未接種者**は、従来型ワクチン（武漢対応）を速やかに2回接種。
⑤政府は接種間隔を5ケ月から3ケ月に短縮を検討。※

2. 小児（五～十一歳）への努力義務の適用

小児（五～十一歳）に9月6日付けで、**他の世代**と同様に**努力義務**が適用され、また、2回目の接種から5カ月以上経過後に**3回目**の接種券が発送されます。

なお、努力義務は**強制ではありません**。本人や保護者が判断して接種するものです。

ただし、**同調圧力**が強くなり、学校でのクラス内等で、半ば強制のような事態が生起しないよう対応を要望しました。市もそのことは認識しており、教育委員会と連携して強制とならないよう取り組むとしています。なお、9月上旬、本市では**小児**の1・2回目の**接種率は約10%**です。（議会答弁）

努力義務は強制ではない。本人と保護者の判断である。

※産経新聞 HP「<独自>ワクチンの接種間隔 5ヶ月から3ヶ月に短縮へ」2022.9.21

この資料は摂津市議会での活動等をまとめたものです。

プロフィール

摂津市議会議員
松本（まつもと） 暁彦（あきひこ）

●昭和58年生まれ ●関西大倉高校卒業 ●香川大学農学部卒業 ●陸上自衛隊（退職時一等陸尉）東日本大震災・PKO（ハイチ）で派遣活動に従事 ●前衆議院議員とかしきなおみ事務所元秘書 ●自民党摂津市支部 副支部長 ●自民党大阪府連青年局 ●MBA取得（関西学院大学経営戦略研究科卒業）●消防団 ●予備自衛官 ●座右の銘「蒔かぬ種は生えぬ」

（HP）

議会報告 旧三宅スポーツセンターと旧味舌小学校跡地の将来的な活用

1. 決まっていない平時の将来的な活用方法

旧三宅スポーツセンターと旧味舌小学校跡地は、**災害時の防災空地**とされていますが、平時での将来的な活用方法については定まっていません。

現状は、旧三宅スポーツセンターでは、スポーツ実践の場として、**地元自治会のお祭り**や、体育祭、防災訓練などにも幅広く活用されています。

旧味舌小学校跡地は、せっつ幼稚園の建て替え工事に伴う**仮園舎**として、令和5年の9月まで使用予定ですが、その後は未定です。

この状況の中、旧三宅スポーツセンターでは耐震化されていない校舎が取り残されるなど、**地域住民**にとっても**方針が示されていない**ことで**不安材料**となっており、その対応が求められています。

2. 提言 魅力的な拠点への活用

私は議会にて、この両施設跡地は、シティプロモーションもかね、**人を集める魅力**とし、このまちに住みたいと思ってもらうための**豊かな住環境に生かすべき**と、提言しています。

例えば機能別公園として、旧味舌小学校跡地は芝生化し、一部は舗装化してキッチンカー等のイベント空間を作り、**にぎわいを創出する公園**として、旧三宅スポーツセンターは未耐震の校舎は解体し、地域のイベントが継続でき、スポーツと健康増進の為の**運動拠点となる公園**とする。そして**防災空地**としての安全性・利便性の確保も図っていく、というものです。

これは長期的にもメリットにつながると考えています。

（イメージ）

（旧味舌小跡地）

（旧三宅スポーツセンター）

説明と実態の乖離？ ワクチン接種等の実態について

1. 接種者のほうが感染している実態

厚労省の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードでは10万人あたりの**コロナ新規陽性者**は、8月22日～28日で十二歳から七十九歳で、**未接種者**より**2・3回目接種者合計**の方が**多く**なっています。（上表参照）

8月の他の週もほぼ同様の傾向であり、これを見れば、接種したほうが感染している実態が分かります。

ワクチン接種歴別の新規陽性者数
(2022年 8/22-8/28)

10万人あたりの新規陽性者数			
年齢	未接種者	2回目接種済	3回目接種済
0-11	1113		
12-19	864	903.9	647.1
20-29	981.3	1016.2	896.8
30-39	760.6	961.5	825.2
40-49	558.3	850.7	700.6
50-59	947.4	737.5	576.9
60-64	498.3	659.8	479
65-69	194.9	584.7	379.5
70-79	378	482.8	290.9
80-89	12057.9	511.8	297.4
90以上	-	640.8	468.9

2. 制度の見直しが必要では？「コロナ死者」の実態

TV報道で毎日挙げられる「コロナ死者」ですが、令和2年6月から厚労省により、**老衰や基礎疾患など他の要因での死亡**もコロナ**陽性**であれば、全て「**コロナ死者**」でカウントされています。

この問題を取り上げた中日新聞記事（8月17日付）には、『新型コロナウイルス感染の流行「第七波」で15日までに公表された愛知県内の「コロナ死者」について、死因で第四波や第五波などでは顕著だった「**コロナ肺炎**」単独のケースは**確認されていない**ことが、県への取材で分かった。

6月20日以降とする第七波での死者数は、15日時点で235人。高齢だったり、持病がもともとあったりする**感染者**の多くが、**老衰や持病の悪化などで命を落としている**とみられる。（略）』というものです。（上表）

愛知県　6/20-8/15（第七波）

コロナ死者	235人
コロナ肺炎(単独)	0人
老衰・持病の悪化等	235人

今、コロナ起因の死亡かどうか**正確に把握されない**まま、数字だけが一人歩きしています。その報道で、見る方々は不安を募らせている現状があります。

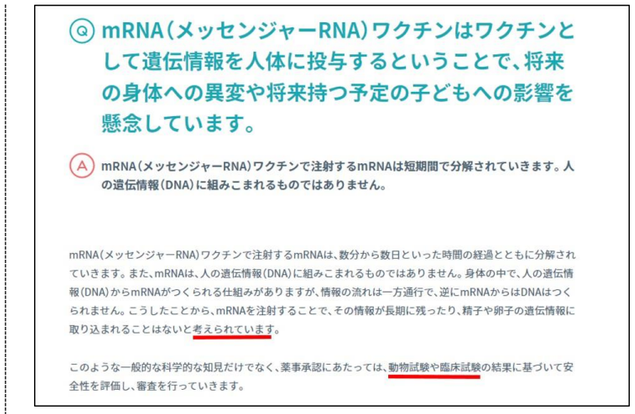
3. 長期的な安全性は検証されていない

厚労省HPの「新型コロナワクチンの有効性・安全性の評価」では、「接種開始後の安全性の評価」と「臨床試験での安全性の評価」は記載されていますが、**長期的な安全性**については**記載されていません**。

当然ながらこれまでと全く異なるmRNAのワクチンは緊急で承認されたもので、**数年という長期では検証されていない**事実があります。

上写真は厚労省の新型コロナQ&Aで「mRNAワクチン」に関して、将来的な懸念への回答ですが、記載の通りです。

「考えられている」、「動物実験」、「臨床試験」という文言はありますが、**長期的な安全性**は確立されているとか、検証したという**文言はありません**。



Q mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンはワクチンとして遺伝情報を人体に投与するということで、将来の身体への異変や将来持つ予定の子どもへの影響を懸念しています。

A mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンで注射するmRNAは短期間で分解されていきます。人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。

mRNA（メッセンジャーRNA）ワクチンで注射するmRNAは、数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、mRNAは、人の遺伝情報（DNA）に組みこまれるものではありません。身体の中で、人の遺伝情報（DNA）からmRNAがつくられる仕組みがありますが、情報の流れは一方通行で、逆にmRNAからはDNAはつくられません。こうしたことから、mRNAを注射することで、その情報が長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。

このような一般的な科学的な知見だけでなく、薬事承認にあたっては、動物試験や臨床試験の結果に基づいて安全性を評価し、審査を行っていきます。

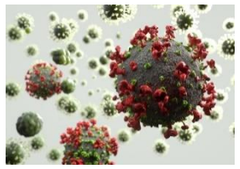
4. 研究で新たな事実が・説明との乖離？

①. ADE（**抗体依存性感染増強**）という、ワクチン接種・ウイルスへの感染でできた「抗体」により、**逆に感染しやすく**なったり、**症状が悪化**したりする現象があります。

厚労省はワクチン接種での**ADEを否定**しています。ただし、9月16日公開の最新の研究で、ワクチン接種後、一部の血清に**ADE活性がある**ことが示唆されたことが報告されています。※1

②. 9月17日、広島大のチームが新型コロナワクチンを**2回接種後**、原因が分からずに**死亡**した4人を調べた結果、いずれも炎症に関わる**遺伝子が過剰に働き**、死亡時の**推定体温**が**高い**という特徴があったとする研究成果を発表しました。

「炎症に関わる遺伝子が過剰に働いており、**サイトカインストーム**（ウイルスを攻撃する免疫調節機能が過剰反応（**暴走**）し、患者の身体を攻撃する現象）が起きたのではないかとみている。」というものです。※2



参照：※1 scientific reports「FcR-および ACE2 陽性細胞を用いた抗 SARS-CoV-2 治療用抗体および mRNA ワクチン抗血清における抗体依存性感染増強の再評価」2022.9.16

参照：※2 毎日新聞 HP「新型コロナくらし情報ワクチン2回接種後の死亡 免疫調節機能 過剰反応か 広大教授らまとめ」2022.9.27

見過ごされるデメリット 軽視すべきではない 懸念される副反応について

1. 多過ぎないか？ 副反応疑い

9月2日の厚労省の予防接種法に基づく**医療機関**からの**副反応疑い報告**状況では、2022年8月7日迄で、全種類のコロナワクチン合計で**死亡1,392**件、**重篤7,720**件、製造販売業者からの報告では**死亡1,738**件となっています。（上表）

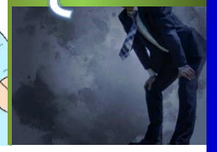
小児（五～十一歳）では、2月から8月7日までの約半年でワクチン接種での副反応疑い報告は、**重篤30**件、**死亡1**件となっています。これは保護者が懸念される事項の一つです。

ただ、これらは疑いであって、正式に因果関係を認められていないのだから、ワクチンは安全だと言う方もおられます。

では、認められていないからと言ってこれらの数字を軽視して良いのでしょうか。個人判断ではなく、医療機関等からの報告なのですから、**軽視するには多過ぎる**のではないでしょうか。

副反応疑い報告状況（2021年2月17日－2022年8月7日）

		副反応疑い	うち重篤報告	うち死亡報告
医療機関報告数	全年齢	34,612件	7,720件	1,392件
	小児（5～11歳） 2022/2/21 - 8/7	115件	30件	1件
製造販売業者報告数		23,879件	-	1,738件



2. 懸念される副反応への声

今、ワクチンの副反応疑いでの死者、重篤の報告数の多さに**一部の病院・医師**等で、**ワクチンの安全性**を**懸念**する声が増えています。

一つ紹介すると、「全国有志医師の会」というのがあり、上記の緊急声明を出しています。

その内容を抜粋すると、「（略）世界各国からコロナウイルスのスパイクタンパクが血栓形成毒性を持つことを示唆する論文が多数発表されています。mRNAワクチンには、このコロナウイルスの**スパイクタンパク**の**血栓形成毒性**を除去した形跡が認められず、実際に接種後に血栓に関連する副反応が多数報告されています。これらのことから、このようなタンパク質を発現する遺伝子製剤やタンパク質自体を体内に投与することは**医学的に大きなリスクを生じる**と予想されます。（略）」というものです。

5～11 歳の子ども達への新型コロナワクチン接種の「努力義務」規定に強く抗議します。 子ども達、若者達への新型コロナワクチン接種の即時中止を求めます。

3. ワクチン接種の健康被害救済制度の実状

全国の自治体から国に予防接種健康被害救済制度を利用する為、9月上旬で約**4千**件の進達が行われています。

そして国の専門審査部会において審査されたもののうち、約**900**件が認定、約60件が否認という結果となっています。（上表・議会答弁より）

現状、**認定が3割にも満たない**狭き門です。今後も追加接種が増えていけば、進達数も増えていくでしょう。当然ながら迷われている等で、表に出てきていない方々も相当数おられるでしょう。

予防接種健康被害認定制度（9月上旬）

進達数	約4200件
認　定	約900件
否　認	約60件
審査中	約3240件

札幌では札幌禎心会病院等、幾つかの病院がワクチン接種の実態等を鑑みて、**ワクチン接種を中止**しています。

また、インターネットで検索できるものをご参考に一部記載します。「東北有志医師の会」、「ドクターヒロのリアル・サイエンス」、「なぜ「ワクチン後遺症」を国は認めないのか？長尾和宏医師が告発する免疫低下の実態」等々です。

人の命が関わる以上、こういった**懸念する声**も**認識すべき**ではないでしょうか。

一年半が経ち、見えてきた実態を踏まえ、4. 冷静に考えたいワクチン接種

新型コロナワクチン接種に関して、1年半前の高まる不安で**とにかく打とうという段階**は、過ぎていると考えます。

今は、見えてきたワクチンの実態、重大な結果にもつながる副反応、打てば打つほどに高まる副反応リスク、国の救済制度の困難さ等を踏まえ、**慎重に判断すべき段階**です。

ワクチンは打つことが**目的ではなく**、命・健康を守る為の**手段の一つ**です。改めて**冷静にメリット・デメリットを把握**しなければなりません。

健康の基本は**自己免疫力を高める**ことです。どんな良い薬も限度を超えれば人により毒にもなります。打たないという選択肢もあります。

ただワクチンに**ネガティブな情報は報道されず**知られていません。そのため少しでもご参考になるようこのチラシを作成しています。メリットは報道等をご参考下さい。

より詳細な情報はブログに掲載しています。

下記**QRコード**からリンクしています。